

Title	二〇一二年度三田史学会大会：二〇一二年六月二三日
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	2013
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.81, No.4 (2013. 1) ,p.175(707)- 178(710)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-20130100-0175

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

二〇一二年度 三田史学会大会

―二〇一二年六月二三日―

午前の部 研究発表

日本史部会

一、廷臣層の募参慣行について

慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程

的場 匠平

二、萩藩の知行地支配と益田家

―「須佐騒動」をてがかりとして―

国士舘大学法学部

重田 麻紀

三、伊勢商人竹川竹斎の海軍構想

―『護国論』を中心に―

防衛大学校総合安全保障研究科後期課程

金澤 裕之

四、大正期の服飾流行とデパート

慶應義塾大学大学院文学研究科研究生

加治屋 智実

東洋史部会

一、重慶国民政府の西南国境防衛政策 一九三九―一九四〇

慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程

藤井 元博

二、康有為のシンガポール滞在（一九〇〇年）とその華人社会への影響

慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程

持田 洋平

三、ペルシア語鷹書研究序説

―アラー・アフマド・ナサウイー『鷹書』を中心に―

慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程 爲 永 憲 司
四、アフシャール朝の首都アシュハド・ナーデル・シャールの治世を中心に

早稲田大学イスラーム地域研究機構招聘研究員 杉 山 隆 一

西洋史部会

一、移民とスペインの植民地支配

― キューバの奴隷制をめぐる外交危機（一八四〇―四二年）におけるインディアノ（アメリカ帰り）の役割―
慶應義塾大学経済学部 八 嶋 由 香 利

二、「ハミルトン体制」における、ハミルトン、コックスの国家構想の相違について

― 製造業育成策と内陸領土の位置づけを中心に―
水産大学校 田 宮 晴 彦

三、租界期上海の劇場文化
― 一九三〇年代のライシャム・シアターを中心に―
同志社大学文学部 藤 田 拓 之

民族学考古学部会

一、寛永通寶の生産をめぐる一考察

― 文銭の形態と化学成分組成比との関係から―
慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程 竹 内 俊 吾

二、黎明期における遺跡保存制度とその担い手たち

― 史跡名勝天然記念物調査会考查員柴田常英を中心に―

慶應義塾大学矢上地区文化財調査室

須田 英一

三、オセアニア隆起サンゴ礁における先史時代の人間居住

―グアム島の事例から―

慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程

島崎 達也

四、中期青銅器時代Ⅱ期南レヴァント地域における水差し形土器の出土状況の特異性

慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程

佐野 真奈美

五、南レヴァント鉄器時代Ⅱ期における広口長胴壺 (Holemouth jar) の基礎的研究

慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程

三戸 芽

午後の部 講演会

「南アジア海域における人の国際移動―インド人と中国人を中心に―」

司会

慶應義塾大学文学部

吉原 和男

講演 1 「海峡植民都市における多民族社会の形成と統合―ペナンの事例―」

追手門学院大学国際教養学部

重松 伸司

講演 2 「マラッカ海峡以西の海と中国」

立教大学文学部

上田 信

三田史学会総会

懇親会

三田史学会常任委員・委員 (二〇一二年七月～二〇一三年六月)

〔常任委員〕

〔会長〕 阿部祥人

〔庶務〕 桐本東太 (大会庶務) 吉武憲司 (大会庶務) 佐藤孝雄

〔編集〕 三宅和朗 長谷部史彦 大森雄太郎 杉本智俊

〔会計〕 浅見雅一

〔会計監査〕

近藤太郎 原信芳

〔委員〕

〔日本史学〕 木村直也 小山幸伸 藤森健太郎 古川元也 湯浅吉美

〔東洋史学〕 尾崎康 坂本勉 嶋尾稔 野元晋 山城喜憲

〔西洋史学〕 赤江雄一 北濱佳奈 坂口昂吉 田辺三千広 野々瀬浩司

〔民族学考古学〕 櫻井準也 高山博 近森正 徳永里砂 牧野久実